

メキシコ ベリー類が農産物・食品の輸出をリード

FreshFruitProtal 2023年8月2日

2022年のメキシコの農産物・食品輸出において、ベリー類はビールに取って代わりトップとなった。メキシコ銀行によると、2023年の最初の2か月間にも、このセクターの輸出額は7億7,700万ドルで収益性を確保した。ベリー類は、アボカドなどの人気のある他の農産物や、ビールやテキーラなどの需要の高い製品を上回っており、これは簡単なことではない。

ベリー類は、メキシコ国内の32州のうち22州で商業的に生産され、世界の38か国に輸出されている。メキシコはラズベリー、ブルーベリー、ブラックベリー及びイチゴを生産しており、後者が輸出をリードしている。米国がメキシコ産ベリー類の最大の輸入国であり、中東、東南アジア、ヨーロッパがそれに続く。

過去10年間で、イチゴ、ブルーベリー、ラズベリーの生産量は、2011年の25万7千トンから、2020年には75万4千トンと3倍になった。その間に、メキシコのベリー類輸出総額は5倍に増加した。

メキシコ政府のビクトル・マヌエル・ビジャロボス農業・農村開発大臣は、2022年にメキシコは56万トンのイチゴを輸出し、このセクターは45万人以上の雇用を提供していると述べた。これらの雇用の約40%は、業界の女性のものである。

主な産地はミチョアカン州で、すべてのベリー類の58%を出荷し、ハリスコ州とバハカリフォルニア州がこれに次ぎ、それぞれ17%及び12%を占めている。

EU リンゴとナシの2023年の生産量は減少

EUROFRUIT 2023年8月3日

欧州連合の2023年のリンゴ生産量は、昨年と比較して3.3%減となる1,141万トンと見込まれる。この生産量は過去3年間の平均と並ぶ(+0.3%)ものである。この予測は、今週イタリアのトレンティーノで開催され、ヨーロッパ及びその他の国のリンゴとナシの関係者300人以上が集まったプログノスフルーツ(Prognosfruit)2023の開会時に、世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)のフィリップ・ビナール事務局長によって発表された。

主な品種に関しては、ゴールデンデリシャスは11.7%増の216万7千トン、2番目に多いガラは4.8%増の152万2,700トンと予想される。一方、レッドデリシャスとアイダレッドの生産量は、それぞれ10%及び6.1%減少すると見込まれる。

2023年のEUのナシの生産量は、12.9%減の174万6千トンと推定される。ビナール氏は、この減少はイタリアの生産量の大幅な減少(2022年に比べ63%減)と、フランスとオランダの生産量がそれぞれ28.6%及び3.1%減少したことによるものであると述べた。2023年のコンフェレンス品種の生産量は8%増の92万8,081トンと予測される。一方、ウィリアムズ・ボン・クレシアン品種は36.8%減少し、アバテ・フェタル品種の生産量は69.3%の減少となる5万2,846トンに急落するものと予想される。

WAPAによると、ヨーロッパの傾向は、中国(リンゴの生産量は3,720万トンで横ばい)や、生産量が3.6%減少して450万トンに落ち込む米国など、他の北半球諸国で見られる傾向と同様である。インドのリンゴの生産量も30%以上の減となる190万トンと予想される。米国のナシ生産量は3.7%減の50万2千トン、中国のナシ生産量は10%増の1,760万トンと予測される。

ビナール氏は「このシーズンは、比較的低い収穫量、南半球との重複がないこと、前シーズンからの持ち越し在庫がないこと、果樹園の継続的な改善など、有利な状況で始まった。地政学的及び市場アクセスの問題に対処しながら、病虫害を緩和し、天候条件を監視し続ける必要がある」と言い、将来については、「リンゴとナシの品質及び環境、栄養、健康上の利点に見合うように価格を引き上げつつ、リンゴとナシの消費を刺激する絶好の機会があるだろう」と述べた。

執筆者: マウラ・マクスウェル